

## りびんぐらいぶず 令和元(2019)年11月第1号

### 親鸞聖人ご誕生八百五十年・立教開宗八百年の御消息

名号のはたらきは、私たちによって受けとめられなければなりません。名号を聞く者に認識されなければなりません。そうでなければ宗教的象徴としての働きをもちません。聞こえて下さった名号を「本願招喚(しょうかん)の勅命」と受けとめることこそ「信心」だったのです。

(Ref 石田慶和 本願寺出版社刊「これからの浄土真宗」p74)

#### はじめに

二〇一九年一月九日に専如御門主による『御消息』が発布されました。『御消息』とは御門主のお手紙を意味します。親鸞聖人ご誕生八百五十年と立教開宗八百年をお迎えするに当たっての門末へのお知らせです。

親鸞聖人は、承安三年(一一七三)にご誕生になりましたので、八百五十年目は二〇二三年となります。また、聖人五十二歳の元仁元年(一二二四)は他力念仏のみ教えをおまとめになった『教行信証』ご執筆の草稿本成立年次たる立教開宗の御歳と定められており、八百年目は二〇二四年となります。

#### お名号の働きを受けとめ易くするためのお手立て

『御消息』には、「お釈迦様は、苦悩の私たちをそのままに救い、おさとの真実へ導こうと願われたのが阿弥陀如来であると教えてくださいました」とあります。

「そして、親鸞聖人は、この阿弥陀如来の願い(ご本願)が、南無阿弥陀仏のお念仏となって働き続けて下さっていることをあきらかにされたのです。」と教えて下さっています。

御消息にこのように明確にして下さったことは、名号を認識する上で大変有り難いことであると承らないではおれません。

なぜなら南無阿弥陀仏のお名号と表現するときにはそれがどのようにして働いて下さるのかは凡夫にとって容易に認識し難いところ、本願力回向で賜ったお念仏を称えれば私の上で大行が働き出され直ちに聞こえて下さったものこそは如来様そのお方のお喚び声だったと受けとめること(聞名)は親しみ深い論理だったからです。

念の為、このほどK学寮に確認致しましたところ、御門主が認められた『御消息』が発布されるに当たっては、K学寮も委員を構成される起草委員会のご同意の上で発布(Ref『宗報』2019年9月号p2~)されたものであるとご回答戴きました。

これは『御消息』が発布されるプロセスについてのお応えですが、換言すれば、『御消息』に記載された本質的な構成要素にも同意されたものとして受けとめることができます。不肖が確認に及んだのはこの点に関します。

三業惑乱後の決着としての御常教の許では、「南無阿弥陀佛のお念仏となって働き続けて下さっている」とお念仏を優先して私共門末が云おうものなら、これは異安心であるとして許されない虞れが大だったからであります。

それ故、一月九日ご発布の専如御門主の『ご消息』は、御門主による伝道の戦略的方向性が明確化されたものと積極的に受けとめさせて戴くことができることかと窺われることになるのであります。合掌。

仏壮お聴聞の会(ご法話会)十一月三日(日)二十時より

仏教婦人会例会 十月十五日(金)十九時半より

著作編集兼発行元(本願寺派 正覚寺内) 〒520-0501 大津市北小松四五二番地

077-596-0166、FAX077-596-0196 住職 堅田 玄宥